

ヒルズレポート

2022. 6 月



インストラクターが指導！“KAPLA”でアート創作&全国カプラ大会に応募しよう カプラジャパン 富安 智子 先生

小さな板をいくつも組み合わせて作る、KAPLAの作品。見本を見せていただいた時、ただただすばらしく、見入ってしまいました。KAPLAとは、フランスの造形ブロックです。形をイメージしたり、新たなものを創り出したりする力を高め、変化に適応していく器用さと柔軟さを養うことにつながると言われています。この日は、幼児から大人まで、インストラクターの先生に基本的な組み方を教えてもらい、みんなで1つの作品を作りました。私たち大人もいつの間にか一緒に参加していました。真剣に、楽しく作りました。この後、8月には自分で作品を作り、優秀な作品は全国カプラ大会に応募することになっています。



「太陽ウォッチング」

6/19は太陽ウォッチングでした。18日は曇天で中止でしたが、19日は実施できました。望遠鏡に投影板をつけて観察しました。とても暑い日でしたが、60人の天体ファンが訪れました。



あなたの知らない南極の世界「南極の氷がなくなるとペンギンはどうなるの？」

国立極地研究所生物圏研究グループ 渡辺 佑基 先生

この日は、ファミリー向け、一般向けの二回にわたり、海洋生物学者の渡辺佑基先生に南極のペンギンを題材にいろいろと教えていただきました。ペンギンは鳥であり、飛ぶことをあきらめ、泳ぐことを選んだ生物であること。飛ぶ鳥の羽との違い、姿勢の違いも明らかで、子ども達にもとても分かりやすかったです。行動記録用の電子端末を動物に装着するバイオリギングで見てきたペンギンの生態についても、知らないことばかりでした。子ども達は食っているようにペンギンの動画を見ていました。また、南極の氷がなくなると、ペンギンはどうなるのかについても、環境の急激な変化から、ペンギンは生きていけないと思っていた人が多かったようです。しかし、氷がなくなると泳げることで行動範囲が広がり、エサが豊富になっていくこと、ヒナに食べ物を与えられ、生存率が高くなって個体数が増えるペンギンの種もあるとのことに驚きました。生物は種や生息地により個体数が変化していくという話を聞き、一方的な見方や一つのことだけで全体を考えていくことのないよう、様々なデータを活用していくことの大切さも教えてもらったような気がしました。実際に何度も南極に行かれたことのある先生のお話、素敵でした。ありがとうございました。

